

NO32

波切の壕

所在地は志摩市大王町波切（三交バス「波切」下車徒歩6分）



志摩市大王町波切の波切漁港の対岸にある神社の崖下に、旧日本海軍がつくったといわれる大きな壕が残されています。

1998年2月、仲間とともに刊行する書籍の編纂のために訪れた際には、壕の入り口は閉鎖されていませんでした。しかし今回、ひさしぶりに訪れてみると、志摩地方の岩盤である堆積泥岩層の自然風化による脆さからくる崩落や、鹿児島市での防空壕における中学生たちの事故などもあって、入り口が閉鎖されていました。

かつて調査したときは、じょうぶなコンクリート製の入り口から、中は2本の壕が内部でつながっていました。壕の入り口の上部にはいくつかの穴が開けられていて、そこから電線をだしていたようで、電信施設としてつくられていたのではないかと考えられています。

20060725 掲載